

日本ブランド発信事業 「コスプレ」～コミュニケーションツールとしての可能性～

実施期間:2016年08月19日～21日
実地訪問先:オーストラリア(シドニー メルボルン)
「日本ブランド発信事業」専門家
甲冑系造形師 Goldy(ゴルディ)

【はじめに】

2016年リオデジャネイロオリンピックの閉会式で、安倍晋三首相が「スーパーマリオブラザーズ」のマリオのコスプレにてパフォーマンスを行われました。

多くの言葉を語るより、これほど短時間でかつ効率的に「日本」をアピールしながらも、世界中の人々を和ませた手段があったのでしょうか。

数分間という短い公演の中でしたが、日本という国のコンテンツの力で世界中の誰もがわかるものを示し、世界中の人々が一緒に楽しむ事ができたかと思えます。

こうして世界が Japan を知っていくんだと思える、日本のソフトパワーを示した広報でした。

参考:NHK 公式 web サイト <http://sports.nhk.or.jp/video/element/video=28114.html>

一昔前、アニメや漫画は個人の趣味の中で楽しむ、個々の世界でした。

それが今ではインターネットの普及により、コアな人達が可視化され、アーティストが瞬間的に繋がれるようになり、創作する事が容易にできる時代になりました。

そしてそれらは現代的に洗練されて、ミニマリズムで明確なメッセージを表現できるコンテンツとなり、新しい国際的なコミュニケーションツールになり得る可能性を持った存在に進化しています。

今回は、数あるサブカルチャーのコンテンツの中でも、コスプレというジャンルの可能性について、海外へ情報発信を行いました。

【実施内容】

○セミナー:「サブカルチャー(コスプレ)を通じての新しい国際交流」 ※約 60 分

仮装文化は、日本では古くから集団参詣や民衆踊りなどで「違う自分を表現する」方法として根付いてきており、現代のコスプレ文化の基になった歴史を、写真を交えて紹介しました。

それが、交流の新しいツールになり得る可能性を、今の日本で行われている数多くの楽しみ方を具体例として紹介し、日本の魅力を海外へ伝える事ができる手段として説明しました。

最終的には、日本へのインバウンドへ繋げる事を目的としています。



○ワークショップ:「コスプレとしての甲冑(手甲)の作り方」 ※約 60 分

ウレタンフォームとビニール表皮を素材に、甲冑製作を体験してもらいます。
安価な材料と、手軽な工具で簡単にリアルな衣装が「自分自身で作る事ができる」という楽しみを経験して頂きました。
そして、その製作行動そのものは「目的」ではなく、多くの楽しみ方へ繋げることができる「手段」として使って頂くことを目的としています。



【実施報告】

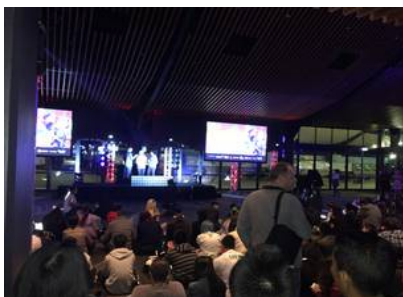
1、SMASH! Sydney Manga and Anime Show

日時:8月20日～21日

場所:シドニー

協力:在シドニー総領事館 羽多野様 他

オーストラリアのシドニーで開催されている、日本サブカルチャーの祭典です。2007年から非営利のボランティア団体が主催をしており、当初はイラストを描く者の集まりとして始まりましたが、今ではポップカルチャーが広く含まれるようになり、若年層を中心に範囲を広げているイベントです。今回は同イベントで以下内容を実施しました。



○セミナー「サブカルチャー(コスプレ)を通じた新しい国際交流」

→サブカルチャーの歴史と、楽しみ方を含めた活用方法を紹介しました。若年層よりも、事業・企業関係者の方々に興味を持って頂きました。その後のネットワーキングイベントで意見交換をする機会を得て、旅行業界(JTB オーストラリア様 他)や食品業界(WashokuLover様 他)等の方々と、サブカルチャーとリンクしての事業拡大等の提案をすることが出来ました。今後の進捗を持って、日本へのインバウンドへ繋げる足がかりに出来ればと考えております。

○ワークショップ「コスプレとしての甲冑(手甲)の作り方」

→定員 25 名の募集枠でしたが、定員を超える多くの希望者にご参加頂きました。主に若年層の方々が多くの興味を示されて、その全ての参加者が無事に甲冑を完成させる事ができました。自分自身で作ることの楽しみを覚えてもらい、そしてそれをコミュニケーションツールとして使ってもらったら嬉しい限りです。

○インタビュー

→以下メディアにてサブカルチャーの可能性を伝えさせて頂きました。

「SBS PopAsia」「The Sydney Morning Herald」「AU Review」「SMASH!」

○コスプレコンベンション、及び WCS オーストラリア審査員

→コスプレのコンテスト 2 大会の審査員を勤めさせて頂きました。衣装の出来栄えやステージ上でのパフォーマンス内容等の審査を行いました。参加者各々が色々な思いを持って参加されている事を強く感じました。特に WCS オーストラリアでは、優勝者に日本招待の特典があるために、日本に憧れを持つファンの方々が持てる力を最大限に発揮して参加されていました。この思いは日本へのインバウンドに繋げる一つの手段となり得ますので、この参加者の方々を様々な手段でローズアップして、他の方々への「日本に行く目標」として明確化していければと考えております。

[所管]

この度の「SMASH!」なる日本大衆文化をメインとしたイベントは、世界各国で行われている日本発サブカルチャーイベントの一つで、そのイベントの数は年々広がりを見せています。その顧客層は往年からのコアなファン層から、近代 SNS ツールを使いこなす若年層まで幅広いです。特に海外のファン層は日本の作品を見るために日本語を一生懸命勉強される方々が多く、一人ひとりのスペックは非常に高いです。その方々がコミュニケーションを求め日本というステージへ興味をもって頂けるこの時代において、早急に日本国内でその受け皿となるインフラ整備が必要と感じました。



[現地メディア掲載資料]

Headlines News



SBS



SUN HERALD



2、RMIT 大学 Brunswick キャンパス内講義

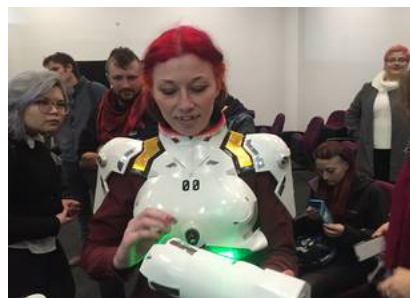
日時:8月22日

場所:メルボルン

協力:在メルボルン総領事館 秋根様 他

今回、講義を行わせて頂いた会場、RMIT 大学(Royal Melbourne Institute of Technology)はメルボルンに本部を置く国立大学で、海外にもキャンパスを多く有する、職業技能に特化したオーストラリアを代表する大学です。

今回は同大学内で以下内容を実施しました。



○セミナー「サブカルチャー(コスプレ)を通じての新しい国際交流」

→参加者の殆どが学生という事で、歴史と文化をより掘り下げた内容で講義を行いました。コスプレを通して日本文化に興味を持たれている方が思ったより多くいらっしゃることに驚きました。中にはコスプレをして参加された方々もあり、日本の数々の魅力を紹介することで日本へのインバウンドに紐付けできると確信できました。

○ワークショップ「コスプレとしての甲冑(手甲)の作り方」

→こちらも定員 25 名枠を超える希望者数があり、定員枠を上回る希望者数という事で、校内模試の成績順で参加枠をお決めになられたと聞いております。その意欲と関心の高さに驚かされました。RMIT 大学は世界有数の工科大学のひとつで、個々の技量も非常に高く、こちらのレクチャー 1 つに対して2つも3つも推測し理解されました。質問なども意欲的に頂くこととなりましたが、時間の関係上全てにお答えすることが出来なかったために、今後は私の SNS へ直接アポイントを入れて頂くことで引き続き個人レクチャーを行っていきます。この繋がりをもって、引き続き一人でも多くの方々に日本の魅力を伝える事が出来ればと思います。

○レセプション及び業界とのミーティング

→メルボルンは「文化の街」と称されるだけあり、数多くの文化が混在して発展してきました。この度の会合でも、日本の文化に特化した色々なお話を聞かせて頂く事ができました。特に、ABP Advancement Officer の Simon Elchlepp 氏は大学構内に日本様式の茶室を建築技術観点から設置されているとの事で、こちらの活用方法についての議論ができた事は大きな収穫です。



〔所管〕

RMIT 大学服飾デザイン科の教授は、本事業の企画段階から積極的に関与して頂き、本当に惜しみない協力をして頂きました。現地主要紙の Age 紙からは事前インタビューの申し込みを頂戴し、記者様が当日朝のセミナーからワークショップまで同行頂き、紙面・電子版に画像入りで本件事業を掲載して頂くことができました。日本文化に友好的な方々がメルボルンにこれ程までに多くいらっしゃる事に強く感動を覚えます。このように多くの日本のコンテンツに興味を持って頂ける方々と機会を持つ事ができるのであれば、コスプレを通過点に、その向こう側に見える数多くの日本文化を紹介することが出来ればと考えております。

また、WCS(世界コスプレサミット)の一環で日本の東京大学や早稲田大学といった都内大学の学生有志を集めた「日本おもてなし部隊」なるものを企画しております。この度の RMIT 大学の方々と、こういった交流を持てた事も一つの大きな機会ですので、日本の学生と是非親睦を深めて頂けるよう、交流の接点を設けていきたいと思っております。



〔現地メディア掲載資料〕

The Age

Japanese cosplay artist Goldy touches down in Melbourne

Hannah Francis 20 reading now Show comments

SHARE TWEET MORE SHARE

About 150 people are gathered in the auditorium to hear wise words from a man dressed like a real-life transformer.

His eyes glow red atop his cyber-age armour, a metal spike protruding from his forehead. He does not speak English; he needs an interpreter.



Cosplay artist "Goldy" teaches students at RMIT Brunswick. Photo: Justin McManus

MOST POPULAR

- 1 Investigation into Prince's death ...
- 2 Australian bands condemn sexual ...
- 3 60 Minutes hits self destruct button ...
- 4 Fans rejoice as Thor and Loki take over ...
- 5 Japanese cosplay artist Goldy touches ...

FOLLOW SPECTRUM

FACEBOOK TWITTER

FOLLOW THE AGE

Takahiro "Goldy" Sakai is like a rock star in the world of cosplay, a portmanteau of "costume" and "play", which describes the art of dressing up as characters from anime, manga and video games.

The originally small subculture has grown to a worldwide multimillion-dollar industry for millions of fans, who participate in international conventions and competitions such as Oz Comic-Con in Melbourne.



Takahiro "Goldy" Sakai. Photo: Brook Mitchell

Goldy has been making cosplay outfits for 20 years, and it can take him up to seven months to finish one. He typically uses light "firm foams" and silver-coloured vinyl sheets to make them more comfortable to wear but even so, he can lose about three kilograms from sweating inside.

NEWSLETTERS

【最後に】

短期間での過密なボリュームで協力させて頂いたこの度の派遣事業ですが、少しでも多くの方々にサブカルチャーを使った楽しみ方と、その向こうに見える多くの日本文化の魅力を伝える事ができたのであれば幸いです。そして、サブカルチャーを通して日本へのインバウンドに繋げる機会が海外には多くある事を、日本の個人や企業に伝えて行きたいと考えています。まだ種まきの段階ですが、具体的な施策となり次第、ご報告あげることが出来れば恐縮です。今回の派遣事業実施にあたり、多大な尽力を頂いた外務省の方々、総領事館関係の方々、そして現地で携わった多くの方々に感謝を申し上げます。

【参考リンク】

外務省海外広報:日本ブランド発信事業 web サイト

http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html

株式会社 WCS 公式 web サイト

<http://www.worldcosplaysummit.jp/>